

第3学年 図画工作科学習指導案

場 所 図工室

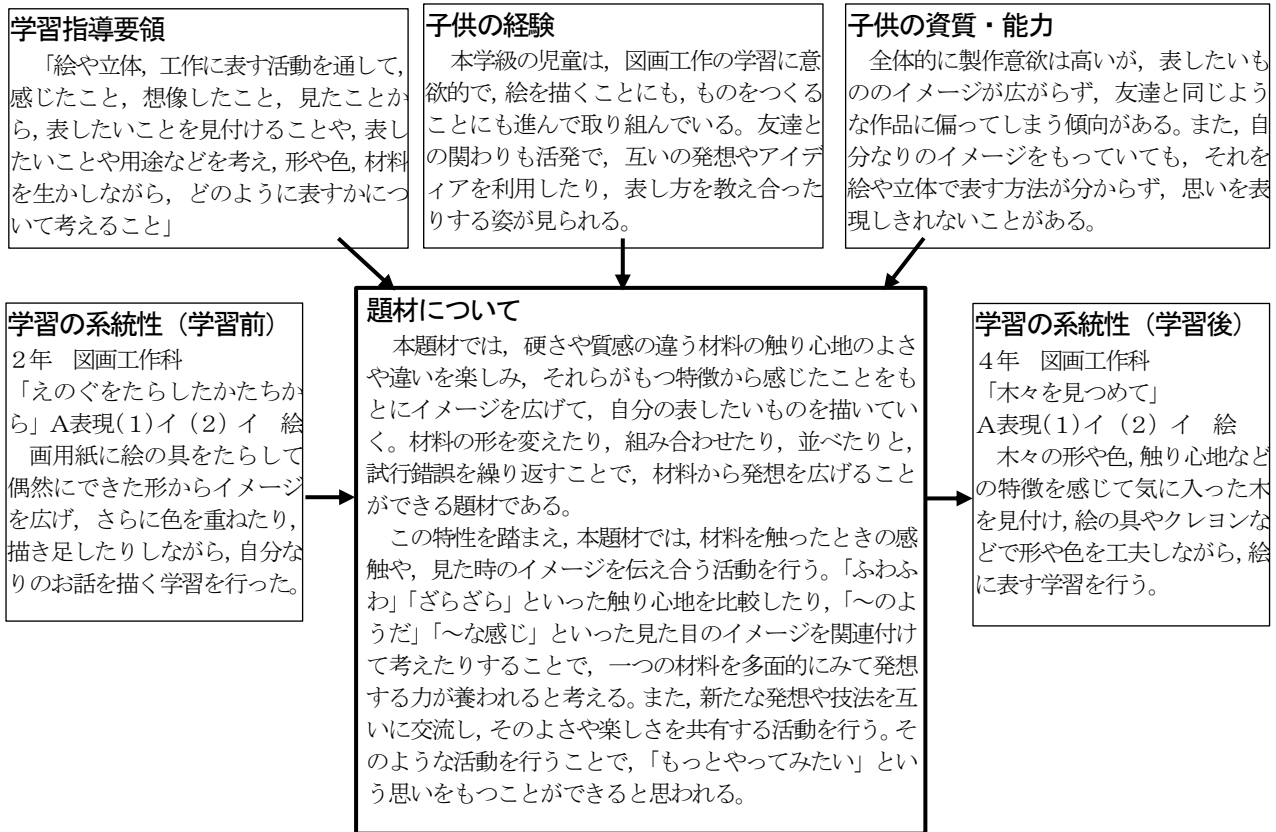
児 童 男15名 女13名 計27名

指導者 名 飯 亮 子

1 題材名

「さわってわくわく」 A表現(1)イ, (2)イ 絵

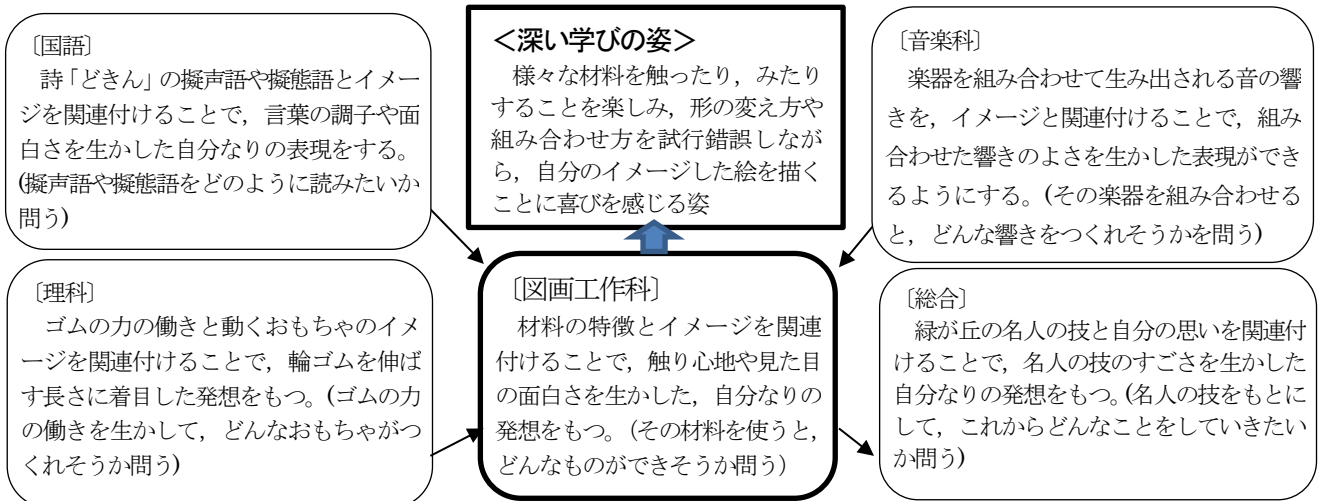
2 題材の指導構想



3 指導にあたって

そこで、みたり、つくったりすることに喜びを感じる子供を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びを実現し、資質・能力を育む題材構成

子供が造形的な視点にもとづきながら友達と対話する活動を通して、みたり、つくったりすることに喜びを感じることができるようにするために、次のような手立てを講じる。

- ・ 学習の導入で、「はてなボックス」を提示し、作品を見ずに手触りだけで作品を感じる時間を設ける。「どんな感じがするかな」と問うことで、手触りを意識して材料と向き合うことができるようにする。また、様々な触り心地の表現に触れることで、「触ってみたい」という意欲をもつことができるようにする。
- ・ 題材を貫く視点（触り方、触り心地、材料の組み合わせ方、色の感じ）を明らかにし、働かせる段階を題材構成に位置付けることで、子供がこれまでに使った見方・考え方を関連付けたり、比較したりしながら、作品づくりに効果的に生かすことができるようにする。
- ・ 制作活動を中断させることなく、様々な表現のよさに触れながら自分の作品に生かすことができるように、教師が自然な形で活動の中に鑑賞の場面をつくる。

視点3 単位時間の目標を達成するための考えるための授業

単位時間の目標を達成するために、次の手立てを講じる。

- ・ 発想の幅を広げ、「もっとこうしたい」という思いをもつことができるように、子供の活動や発言の中から、材料の形の変え方、並べ方、組合せ方に工夫が見られる作品を教師が取り上げ、全体でそのよさについて話し合う場を適宜設ける。
- ・ 材料とイメージのつながりを明らかにし、そのよさや面白さを実感できるように、鑑賞の際に、「なぜ、その材料を選んだのか」「なぜ、そう感じたのか」など、考えの理由を問う。
- ・ 子供自身がその時間の自分の学びを自覚することができるように、授業の最後に振り返りの場を設定し、活動の達成度や身に付いた力、次にやってみたいことなどを、記録するように促す。また、その記録をもとに教師が子供の気付きやつまづきを見取り、価値付けしたりアドバイスしたりする。

4 題材の指導計画

(1) 目標

- ・ 材料に触ったり、見たりすることを通して、形や色の感じを捉えることができる。
【知識及び技能】
- ・ 材料の触り心地からイメージを広げ、描きたいものを思いつき、どのように描くか考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 材料に触ったり、形を変えたり、組み合わせたりすることを楽しもうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 材料に触ったり、見たりすることを通して、「～みたい」「～な感じ」といった自分なりの見方や感じ方をしている。	① 材料に触った感触や形、色から自分のイメージをもち、友達作品と比較・関連付けながら見いだしたよさや工夫を作品に取り入れている。 ② 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、理由を明らかにして伝えている。	① 進んで材料に触れたり、組み合わせたりして表現することを楽しみ、自ら想像してつくり出す喜びを味わっている。

(3) 指導計画 (4時間)

段階	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準 (評価方法)
<p style="text-align: center;">問題の把握 第一次</p>	<p>○ 材料の触り心地を確かめ、イメージを膨らませる。[第1時 (本時)]</p> <p>(1) はてなボックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな触り心地かな。 ・ 何が入っているのかな。 <p>(2) 作品の例示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 綿と毛糸は羊の絵になっていたんだね。 ・ おはじきは、つるつるして透明だから氷にしたんだね。 <p>(3) 材料を組み合わせて置いてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 綿と発泡スチロールを組み合わせたら、かき氷みたいになったよ。シロップになるような材料がほしいな。 ・ 茶色の毛糸を集めたらゴリラみたいだよ。ほかの動物も作ってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の手触りからイメージを広げることができるように、箱の中に作品を隠し、触るとどんな感じがするか、言葉で表現するよう促す。 ・ 材料の特性を作品づくりに生かしていくことができるように、働かせる見方・考え方として、「触り方」「触り心地」を提示する。 ・ 材料をどんなものに変身させるかイメージを膨らませることができるように、材料を組み合わせる試し遊びを取り入れる。 ・ 「もっとこうしたい」という子供の思いを引き出すために、導入で提示する材料は最低限のものにし、家庭での材料集めを促す。 	<p>比較する 関連付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この材料の感じは、～みたい。 ・ こう組み合わせると～な感じ。 	<p>【態①→活動, 観察】</p> <p>(題材を通して評価する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで材料に触れたり、組み合わせたりして表現することを楽しみ、自ら想像してつくり出す喜びを味わっている。 <p>【知①→活動, 観察】</p> <p>材料を触ったり、見たりすることを通して、「～みたい」「～な感じ」といった自分なりの見方や感じ方をしている。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">題材の課題： さわって楽しい！でこぼこな絵をかこう</p>				
<p style="text-align: center;">問題の追究 第二次</p>	<p>○ 家から持ってきた材料を交流し、画用紙に並べてイメージを広げる。[第2時]</p> <p>(1) 持ってきた材料を見せ合って、何ができそうか見立て遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フワフワのタオルはアルパカみたいだね。 ・ 綿と〇〇と〇〇を組み合わせると、おいしいものができそうだよ。 <p>(2) 画用紙に材料を組み合わせて置いてみる (セロテープ・両面テープで仮止め)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇さんはアルミホイルを丸めているから隕石みたいだね。私はアルミホイルを広げて光る地面にするよ。 ・ スポンジの触り心地が気持ちいいね。綿と組み合わせると、雲の上のベットができそう。 <p>(3) 途中段階の作品を交流する (画像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おはじきを使って氷のお城をつくりました。おはじきがつるつるして氷みたいに見えるからです。 ・ ラップを丸めると氷みたいに見えるから、氷のお城にぴったりだと思います。 <p>○ さらに材料を吟味し、自分が表したいものを完成させる。[第3時]</p> <p>(1) 題名を考えながら完成を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふわふわの綿でつくったくじらが主役だから、「ふわふわくじら」にしよう。 ・ ビー玉が光ってきれいだから、「ひかひか宝箱」にしよう。おはじきをつけるともっといいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手触りからイメージを広げるため、触るとどんな感じがするか、言葉で表現するよう促す。 ・ イメージの幅を広げるために、工夫が見られる子供の作品を活動中に教師が紹介し、そのよさを全体で共有する。 ・ 材料の使い方を工夫することができるように、働かせる見方・考え方として、「触り方」「材料の組合せ方」を提示する。 ・ 動かすことができない制作途中の作品を全体でみるができるように、教師が作品を画像記録し、テレビに写して鑑賞する。 ・ 工夫が見られる作品の価値を実感することができるように、よさや面白さを伝え合う際は、理由を付けて話すよう促す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の触り心地や見た目とイメージと結び付けるために、「〇〇な～」というタイトルを考えるように促す。 ・ 次時の鑑賞の際、触っても壊れないように、材料はしっかり画用紙に貼り付けるよう促す。 	<p>比較する 関連付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この材料の感じは、～みたい。 ・ この材料を、こんな風に使ったら、～ができた。 	<p>【思②→活動, 観察記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、理由を明らかにして伝えている。 <p>【思①→活動, 観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料を触った感触や形、色から自分のイメージをもち、友達作品と比較・関連付けしながら見いだしたよさや工夫を作品に取り入れている。
<p style="text-align: center;">まとめ 第三次</p>	<p>○ 自分や友達の作品の手触りを楽しみながらよさを話し合う。[第4時]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇さんの作品がいいと思います。ふわふわなものを集めて、あったかそうな作品ができたと思います。 ・ 〇〇さんは、わたしと同じ材料を使っているけれど、絵の雰囲気違います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の面白さやよさを実感することができるように、価値に迫る発言を教師が全体で取り上げる。 ・ 今後の表現活動に活用していくことができるように、働かせた見方・考え方(触り心地・形の変え方・色の感じ・組材料の組合せ)を価値付ける(掲示を活用)。 	<p>比較する 関連付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この材料を、こんな風に使ったら、〇〇な世界(作品)ができた。 	<p>【思②→発言, 振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしたことを、理由を明らかにして伝えている。

5 本時の指導計画

(1) 目標 (活用する「考えるための技法」・関連付ける)

材料に触った感じをもとに、描きたいもののイメージをもつことができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
材料に触った感じや形、色の組み合わせから、それが何になりそうかを考え、自分なりのイメージをもち、友達に伝えている。 [思考・判断・表現]	友達のやり方を参考にして材料の組み合わせを試し、教師や友達にヒントをもらいながら、何ができそうかを考える。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (15分)	<p>1 はてなボックスの中の作品を触り、手触りについて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> フワフワしているね。これはタオルかな。綿かな。 丸くてつるつるしているよ。おはじかな。 <p>2 はてなボックスを開いて、作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> タオルや綿が羊の絵になっているよ。 羊の毛はもこもこしているから綿を使ったのかな。 <p>3 本時の課題を把握する。</p> <p>材料をさわったり、見たりした感じから思いついたものを、絵に表そう。</p>	<p>手立て①</p> <p>材料の手触りに注目することができるように、はてなボックスの中に作品を隠し、手触りを言葉で表現するように促す。活動の中で活用していくことができるように、子供が気付いた見方・考え方(「触り方」「触り心地」)を教師が価値付け、板書していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の特徴やよさ、面白さに気付くことができるように、その材料を使った理由を考えるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 見方・考え方(掲示)
展開 (20分)	<p>4 教師が用意した材料を使って、いろいろなものを描いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> スポンジはホットケーキみたいになったよ。 オレンジの毛糸と黄色のタオルを組み合わせたら、オムライスみたいになった。 <p>5 材料から何を思いついたか伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 綿とスポンジを並べたら、雲の国みたいになりました。 フェルトと毛糸で、毛並みのいいライオンができました。 <p>6 家にありそうな、手触りの面白い材料について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> プチプチが〇〇になりそう。 使わなくなったタオルがあると、動物になりそう。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供が「もっとこんな材料が欲しい」という思いをもつことができるように、教師が用意する材料は少なめにする。 子供が発想を広げることができるように、子供の活動や発言の中から、材料の形の変え方、並べ方、組合せ方に工夫が見られる作品を教師が随時取り上げ、全体でそのよさについて話し合う場を設ける。 自分のアイデアを次の作品づくりのときに生かすことができるように、描いたものをタブレットで撮影してよいことを伝える。 新しい発想や、面白いイメージを知ることができるように、教師は作品画像を記録し、全体の場で提示する。 <p>手立て②</p> <p>材料の触り心地とイメージを関連付けて考えることができるように、どの材料を、どのように使ったら、何ができたか話すように促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙 スポンジ 梱包材 アルミホイル 毛糸 片面段ボール 等 タブレット
まとめ (10分)	<p>6 本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点に沿って振り返りを発表する。(指名) <p>プチプチを使ってお風呂をつくりました。プチプチしたところが泡みたいに見えました。</p> <p>〇〇さんの綿でつくったソフトクリームは、ふわふわしていて本物みたいでした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の達成度を自覚することができるように、振り返りの視点を示す。 (1) どんな材料を使って、何を描いたか。 (2) 面白いと思った友達のアイデアは何か。 (3) どんな材料が欲しいか。 <p>◇ 材料に触った感じや形、色の組み合わせから、それが何になりそうかを考え、自分なりのイメージをもち、友達に伝えている。【思 発言、活動、記録】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカード

